

人文学・社会科学を軸とした学術知統合プロジェクト

(公募名：人文学・社会科学を軸とした学術知共創プロジェクト)

令和3年度予算案：32百万円
(令和2年度予算額：32百万円)

参考資料6-2
科学技術・学術審議会
学術分科会（第83回）
令和3年3月24日

背景・課題

我が国社会や世界が転換期を迎える中、AIや生命科学などの先端領域の科学技術の社会実装、また、人間中心の社会を掲げるSociety5.0の具体化に向けて人文学・社会科学の学術知に対する期待が高まっているが、人文学・社会科学の学術知の活用にあたっては以下が課題。

- 人文学・社会科学の個々の専門的な研究がそれぞれに分断され、現代的な社会課題やマクロな知の体系との関連付けを得ることが難しくなっている。
- 自然科学による問題設定が主導する形となっているため、人文学・社会科学の研究者がインセンティブを持って協働することが難しく、また、人文学・社会科学の学問体系で蓄積された知と自然科学から発せられるニーズとの間に距離がある。

事業概要

未来社会が直面するであろう諸問題（「大きなテーマ」）のもとに、分野を超えた研究者等が知見を寄せ合って研究課題と研究チームを創り上げていくための場（共創の場）を整備する。このことを通じて、未来の社会課題に向き合うための考察のプロセスを体系化する。

大きなテーマ：①将来の人口動態を見据えた社会・人間の在り方 ② 分断社会の超克 ③ 新たな人類社会を形成する価値の創造

- ・「統合イノベーション戦略2020」（令和2年7月閣議決定）
「科研費等の研究費の措置や共同利用・共同研究体制等の整備により人文・社会科学の研究者の内面的な課題意識に基づく研究活動を支援する」
- ・「人文学・社会科学が先導する未来社会の共創に向けて（審議まとめ）」（平成30年12月）
「人文学・社会科学に固有の本質的・根源的な問いに基づく大きなテーマの下で研究者の内発的動機に基づく提案を募り、その提案を異分野の研究者が相互に交換・議論して研究課題を形成するプロセスを尊重するプロジェクト運営を丁寧に行うことが重要」

令和3年度取組のポイント

引き続き、令和2年度に採択した実施機関の取組を実施し、withコロナ下において、3つの大きなテーマにおける人文学・社会科学の研究者を軸に研究課題・研究チームを共創する場を提供し、研究課題・研究チームの構築を推進する。

<事業スキーム>

事業規模：約30百万円／年
事業期間：3年間
実施機関：大阪大学



<実施状況>

(取組概要)

問い直すべき共通概念、あるいは議論の出発点として「いのち」を置く。「いのち」は誰もがその大切さを認め、また人間や社会の意味やあり方を探求する人文学・社会科学に深く関わる概念であるので、自然科学系研究者や社会のステークホルダーとコミュニケーションを図り、新たな学術知を共創する。

(中心研究者)

- 事業総括者
盛山和夫 東京大学名誉教授（社会学）
- プロジェクト・マネージャー
堂目卓生 大阪大学大学院経済学研究科教授（経済思想史）
- テーマ代表者
 - 将来の人口動態を見据えた社会・人間の在り方
大竹文雄 大阪大学大学院経済学研究科教授（行動経済学）
 - 分断社会の超克
稲場圭信 大阪大学大学院人間科学研究科教授（宗教社会学）
 - 新たな人類社会を形成する価値の創造
出口康夫 京都大学大学院文学研究科教授（近現代哲学）

(アウトプット)

- 3つの大きなテーマに対して、毎年度3つ程度の研究チームを構築
- 未来の社会課題に向き合うための考察のプロセスの体系化

